

高岡市埋蔵文化財分布調査概報IV

— 平成4年度、千鳥ヶ丘地区の遺跡分布調査 —

1993年3月

高岡市教育委員会

高岡市埋蔵文化財分布調査概報IV

— 平成4年度、千鳥ヶ丘地区の遺跡分布調査 —

1993年3月

高岡市教育委員会

例 言

1. 本書は、富山県高岡市における埋蔵文化財分布調査の概要報告書である。
2. 本調査は、平成4年度の国庫補助金の交付を受けて、高岡市教育委員会が実施した。
3. 調査対象地は、高岡市内、旧市南部地域の内、千鳥ヶ丘地区である。
4. 現地調査は、平成4年4月17日から同年11月25日までの実働20日間である。
5. 本調査は、高岡市教育委員会社会教育課文化係主任山口辰一、同事務員樋木和代が担当し、社会教育課長野村一郎、文化係長大石茂が総括した。
6. 本書の執筆は山口が担当した。

凡 例

- 遺跡、埋蔵文化財包蔵地
- ▼ 弥生・古墳時代遺物採集地点
- ▲ 古代遺物採集地点
- 中世遺物採集地点
- 近世遺物採集地点

調査参加者名簿

現地調査

福場由美子、大谷知可子、楠友栄、高田えみ子、三島幸代、宮下真知子

整理

福場由美子、大谷知可子、岡田幸子、高田えみ子、道谷美奈子、橋真理子
三島幸代

高岡市埋蔵文化財分布調査概報IV

目 次

例 言

目 次

I 序 説	1
II 千鳥ヶ丘地区	3
1. 概観	3
2. 各遺跡の様相	6
3. 遺物	8
III 結 語	9

図 面 目 次

図面 1 遺物実測図

図面 2 遺物実測図

図 版 目 次

- 図版 1 遺跡 千鳥ヶ丘地区 1. 中保B遺跡（南西）
2. 小竹A遺跡（南東）
- 図版 2 道路 千鳥ヶ丘地区 1. 小竹B遺跡（北）
2. 小竹C遺跡（西）
- 図版 3 遺跡 千鳥ヶ丘地区 1. 立野地頭田遺跡（南東）
2. 駒方遺跡（北西）
- 図版 4 遺跡 千鳥ヶ丘地区 1. 高田新茅遺跡（南西）
2. 高田新西後遺跡（南西）
- 図版 5 道路 千鳥ヶ丘地区 1. 笹川道尻遺跡（南東）
2. 笹川福田遺跡（南東）
- 図版 6 遺跡 千鳥ヶ丘地区 1. 笹川末広遺跡（南）
2. 笹川末広遺跡（南西）
- 図版 7 遺跡 千鳥ヶ丘地区 1. 本保遺跡（南西）
2. 今市遺跡（東）
- 図版 8 遺跡 千鳥ヶ丘地区 1. 三ヶ遺跡（南）
2. 上開発遺跡（東）

挿 図 目 次

- 第1図 分布調査事業区分図（1/30万） 1
- 第2図 調査対象地区分図（1/15万） 2
- 第3図 千鳥ヶ丘地区位置図（1/5万） 3
- 第4図 千鳥ヶ丘地区遺跡地図〔1〕（1/1万5千） 4
- 第5図 千鳥ヶ丘地区遺跡地図〔2〕（1/1万5千） 5

I 序 説

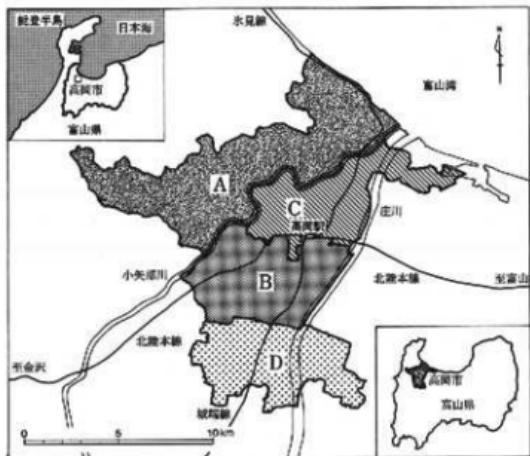
高岡市の位置

高岡市は富山県の北西寄りに位置する。北側は富山湾に臨む。東側は新湊市・大島町・大門町・小杉町と、南側は砺波市・福岡町と接する。また北側は、能登半島の基部東側を占める氷見市である。市域の大部分は、庄川と小矢部川の2大水系によって形成された沖積平野である。これらは、庄川による沖積扇状地部分と、庄川と小矢部川による沖積低地部分とに大別される。砺波平野の北半部と射水平野の西端部に当たる。一方北西部には、西山丘陵と、これに続く二上丘陵が走っている。

西山丘陵埋蔵文化財分布調査

小矢部川左岸一帯の西山・二上地域（西山丘陵・二上丘陵とその周辺の平野部）は、多くの遺跡（埋蔵文化財包蔵地）の所在地として知られていた。昭和50年代に入り道路工事等に伴い、いくつかの遺跡の発掘調査が実施された。当地域に対する各種の開発行為が進むと共に、高岡市は、西山地区での総合開発計画を検討していた。

このような状況の中で、西山・二上地域における遺跡の分布状況や内容の掌握が、埋蔵文化財の保護上急務となってきた。以上のことから、高岡市教育委員会では、昭和58年度～昭和62年度の5箇年に亘り、国庫補助を得て「西山丘陵遺跡分布調査事業」を実施するに至った。その成果は各年度ごとに『西山丘陵埋蔵文化財分布調査概報』I～Vとして刊行されている。



第1図 分布調査事業区分図

(1/30万)

- A. 西山丘陵地域
- B. 旧市南部地域
- C. 旧市北部地域
- D. 戸出・中田地域



第2図 調査対象地区分図

(1/15万)

- a. 木津地区
- b. 東五位地区
- c. 下関地区
- d-1. 南条地区北西部
- d-2. 南条地区南東部
- e. 千鳥ヶ丘地区
- f. 二塚地区

高岡市埋蔵文化財分布調査

西山・二上地域以外にも、高岡市域に数々の遺跡が存在することは言をまたない。平野部が主体を占める地域でも、農地転用等数々の開発行為がなされつつあるのが現状である。これに対して、遺跡の分布状態の把握が不十分であり、国庫補助・県費補助を得て西山・二上地域以外の市域における分布調査に着手することになった。

高岡市は面積15,000haを計る。この内約6,000haは、前述通り西山丘陵分布調査として、実施済みの地域である。すなわち、残り9,000haが対象地となった。広い地域であるので、3地域に大別した。市域の南部に当たる旧戸出町・旧中田町を1つの地域、そして残りの地域は昭和30年以前に合併した町・村よりなるので、これをJ R高岡駅付近を基準に南北に分け、旧市南部地域、旧市北部地域と称することにした。3地域の中では「旧市南部地域」が、最も遺跡密度が濃いと判断されたので、この地域より開始することにした。

地区割りは、小学校区を基準とし、第2図のように区分した。これらを5つのブロックに分け下記のように5箇年で調査を終えるように配分した。

- I. 平成元年度調査実施地区, a ; 木津地区, b ; 東五位地区
- II. 平成2年度調査実施地区, c ; 下関地区, d-1 ; 南条地区北西部
- III. 平成3年度調査実施地区, d-2 ; 南条地区南東部
- IV. 平成4年度調査実施地区, e ; 千鳥ヶ丘地区
- V. 平成5年度調査予定地区, f ; 二塚地区

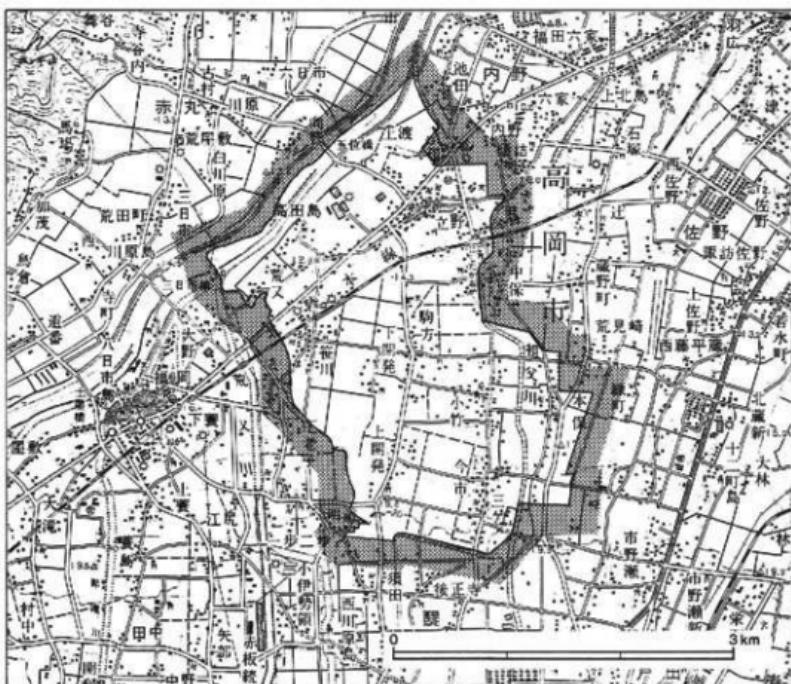
今年度の分布調査

以上のような経緯で、本年度は、千鳥ヶ丘地区において分布調査を実施することに至った。現地調査は、4月と11月に実施した。

II 千鳥ヶ丘地区

1. 概 習

千鳥ヶ丘小学校下、約720haが調査対象地である。範囲は、北側が小矢部川まで、東側が祖父川付近まで、西側が福岡町との市・町境まで、南側が戸出地区（旧戸出町）までである。当地区の北側は旧立野村に当たり、南側は小勢村に当たる。地形的には、沖積低地部分が大部分を占めるが、南側は庄川が形成した沖積扇状地の末端部分となる。当地区の北寄り約3分の1の地点をJ R北陸本線が北東～南西に走る。標高約13mの所である。この北陸本線の北側は、小矢部川に臨む低地となる。南側は南方に向かって高くなり、南端部は標高20m近くの丘状地となる。



第3図 千鳥ヶ丘地区位置図(1/5万)

第4図 千鳥ヶ丘地区道路地図(1)(1/1万計)

11. 中保B道跡、15. 立野地頭田道跡、16. 脊方道跡、17. 高田新茅道跡、
18. 高田新西後道跡、19. 斎川道尻道跡、20. 斎川福田道跡





第5図 千歳ヶ丘地区道路図(2)(1/1万5千)

12. 小竹A道路、13. 小竹B道路、14. 小竹C道路、16. 跡方道路、
20. 植川畠田道路、21. 植川未広道路、22. 本保道路、23. 今市道路、—
24. 三ヶ道路、25. 上間旁道路

2. 各遺跡の様相

11. 中保B遺跡

中保集落の西側、祖父川近くの微高地に位置している。標高約13mを計る。現況は、水田、宅地である。遺跡の範囲は南北80m×東西180mである。採集された遺物は、土師器・須恵器・珠洲である。時代的には、古墳時代～中世である。なお、当遺跡は祖父川の西側に位置しているが、付近の祖父川の東側には、中保A遺跡と中保C遺跡が位置している。

12. 小竹A遺跡

小竹集落の東側、祖父川近くの微高地に位置している。標高約14mを計る。現況は水田である。遺跡の範囲は、一応南北160m×東西140mとしたが、明確ではない。採集された遺物は、土師器・須恵器である。時代的には、奈良時代～中世である。当遺跡は昭和39年に確認されたものであるが、今回の分布調査により、小竹地区より他に2つの遺跡を確認したので、区別するために、從来からの当「小竹遺跡」を小竹A遺跡と称することにする。

13. 小竹B遺跡

小竹集落の北側、祖父川近くの微高地に位置している。標高約14mを計る。現況は水田である。遺跡の範囲は、南北160m×東西80mである。採集された遺物は、土師器・須恵器・珠洲である。時代的には、奈良時代～中世である。

14. 小竹C遺跡

小竹集落の北西側に位置している。谷部を挟んで、小竹B遺跡と対峙する形となっている。標高約14mを計る。現況は、水田、畑地、墓地である。遺跡の範囲は、南北220m×東西120mである。採集された遺物は、土師器・須恵器・珠洲である。古墳時代前期の土師器が多い。時代的には、古墳時代～中世である。

15. 立野地頭田遺跡

J R北陸本線の南側で、千鳥ヶ丘小学校の北側に位置している。標高約14mを計る。現況は水田である。遺跡の範囲は、一応南北210m×東西140mとしたが、明確ではない。採集された遺物は、土師器・須恵器・珠洲である。以前には、繩文時代晩期の土器も出土している。なお、從前より、千鳥ヶ丘小学校の北側は、「立野地頭田遺跡」と「千鳥ヶ丘遺跡」の2つの遺跡の所在地とされてきたが、隣接する遺跡であることと、具体的な内容が明確でないこともあり、今回1つの遺跡として、取り扱うこととした。名称としては、千鳥ヶ丘地内ではなく、立野地内であること考慮して、立野地頭田遺跡としておく。

16. 駒方遺跡

駒方集落の北西部に位置している。標高約14mを計る。現況は水田である。遺跡の範囲は、一応南北120m×東西120mとしたが、明確ではない。今回の採集遺物は、土師器の小破片に止まる。当遺跡は昭和46年に、園場整備工事中に確認された。そして、昭和47年に高岡市教育委員会・高

岡工芸高等学校地理歴史クラブOB会による発掘調査が実施された。この調査では、縄文時代晩期の遺構の確認と該期の土器や石器の出土をみている。時代的には、縄文時代晩期を中心であるが、以前須恵器も採集されていることもあり、奈良～平安時代頃の遺跡でもある。

17. 高田新茅道遺跡

千鳥ヶ丘小学校の北西側に位置している。標高約14mを計る。現況は水田である。遺跡の範囲は、一応南北100m×東西100mとしたが、明確ではない。今回調査での採集遺物はない。当遺跡は昭和46年に、圃場整備工事中に確認された。そして、同年に高岡市教育委員会・高岡工芸高等学校地理歴史クラブOB会による発掘調査が実施された。この調査で、縄文時代晩期の土器と石器が出土している。

18. 高田新西後遺跡

千鳥ヶ丘小学校の西側に位置している。標高約14mを計る。現況は水田である。遺跡の範囲は一応南北150m×東西160mとしたが、明確ではない。今回の採集遺物は、土師器・珠洲である。当遺跡は昭和46年に、圃場整備工事中に確認された。その時、縄文時代晩期の包含層の存在と該期の遺物の出土をみている。また須恵器や珠洲も採集されている。時代的には、縄文時代晩期を中心で、奈良時代～中世の遺跡でもあるものと理解している。

19. 笹川道尻遺跡

笹川集落の北東部に位置している。標高約14mを計る。現況は水田である。遺跡の範囲は、一応南北90m×東西90mとしたが、明確ではない。今回の採集遺物は、土師器の小破片に止まる。以前須恵器も採集されていることもあり、奈良～平安時代頃の遺跡としておく。

20. 笹川福田遺跡

笹川集落の東側一帯である。標高約14mを計る。現況は、水田、畑地、宅地である。遺跡の範囲は、南北350m×東西300mである。採集された遺物は、弥生土器・土師器・須恵器・珠洲である。時代的には、弥生時代後期～中世である。なお、付近に「笹川遺跡」が存在するが、実態が不明であり、当遺跡がこの笹川遺跡をも含むものと理解しておきたい。

21. 笹川末広遺跡

笹川集落の南側一帯である。標高約14mを計る。現況は、水田、畑地、宅地である。遺跡の範囲は、南北760m×東西550mである。採集された遺物は、弥生土器・土師器・須恵器・珠洲・天目・近世陶磁器である。時代的には、弥生時代後期～近世である。当遺跡の南側・西側は、福岡町になり、この市・町境を小河川（用水）が北流れしている。ここを境に福岡町側が一段低くなっている。この低地を臨む微高地に当遺跡が存在している。

22. 本保遺跡

本保集落の南端部、祖父川と長江用水に挟まれた部分に位置している。標高約14mを計る。現況は、水田、畑地である。遺跡の範囲は、南北300m×東西90mである。採集された遺物は、土師器・須恵器である。時代的には、奈良～平安時代である。

23. 今市遺跡

今市集落の北西側一帯である。標高約14mを計る。現況は、水田、畑地、宅地である。遺跡の範囲は、南北550m×東西400mである。採集された遺物は、弥生土器・土師器・須恵器・珠洲・近世陶磁器である。時代的には、弥生時代後期～近世である。

24. 三ヶ遺跡

三ヶ集落の南西側に位置する。標高約14mを計る。現況は、水田、畑地である。遺跡の範囲は、南北180m×東西180mである。採集された遺物は、土師器・須恵器・珠洲である。時代的には古墳時代～中世である。

25. 上開発遺跡

上開発集落の中程、神明社の西側一帯である。標高約14mを計る。現況は、水田、畑地、宅地である。遺跡の範囲は、南北190m×東西260mである。採集された遺物は、土師器・須恵器・珠洲である。時代的には、奈良時代～中世である。

3. 遺 物

弥生土器（図面1）

101～102。弥生時代末ないし古墳時代初期の甕の口縁部。101が笛川福田遺跡、102が今市遺跡の出土である。

土師器（図面1）

103～105。平安時代後期～中世の土師器の皿。103は底部が糸切り。104～105は非ロクロの製品である。103が今市遺跡、104が高田新西後遺跡、105が三ヶ遺跡の出土である。

須恵器（図面1）

106～117。奈良時代～平安時代の須恵器。杯=106～114と甕=115～117である。出土遺跡は以下のとおりである。

106本保遺跡、107笛川末広遺跡、108今市遺跡、109～110駒方遺跡、111小竹C遺跡

112本保遺跡、113中保B遺跡、114小竹B遺跡、115小竹A遺跡、116今市遺跡

117小竹C遺跡

珠洲（図面2）

118～119。珠洲の鉢である。118が駒方遺跡、119が三ヶ遺跡出土である。

青磁（図面2）

120。青磁の碗の底部である。今市遺跡付近から出土している。

越中瀬戸（図面2）

121～130。各遺跡から出土した越中瀬戸の底部片である。

III 結 語

今回の調査対象地は、平成元年度より5箇年計画で分布調査を実施している「旧市南部地域」の内、最も西側の地区に当たり、西側は福岡町となる。

遺跡が所在するところは、JR北陸本線の南側である。旧立野村の南部地区と旧小勢村一帯である。標高が13m～15mを計るところで、南へ行くに従って高くなっている。

遺跡の一覧

今回の地区的遺跡は以下のとおりである。

11. 中保B遺跡 古墳時代～中世
12. 小竹A遺跡 奈良時代～中世
13. 小竹B遺跡 奈良時代～中世
14. 小竹C遺跡 古墳時代～中世
15. 立野地頭田遺跡 繩文時代晚期・奈良時代～中世
16. 駒方遺跡 繩文時代晚期・奈良時代～平安時代
17. 高田新茅道遺跡 繩文時代晚期
18. 高田新西後遺跡 繩文時代晚期・奈良時代～中世
19. 笹川道尻遺跡 奈良時代～平安時代
20. 笹川福田遺跡 弥生時代～中世
21. 笹川末広遺跡 弥生時代～近世
22. 本保遺跡 奈良時代～平安時代
23. 今市遺跡 弥生時代～近世
24. 三ヶ遺跡 古墳時代
25. 上開発遺跡 奈良時代～中世

遺跡の確認

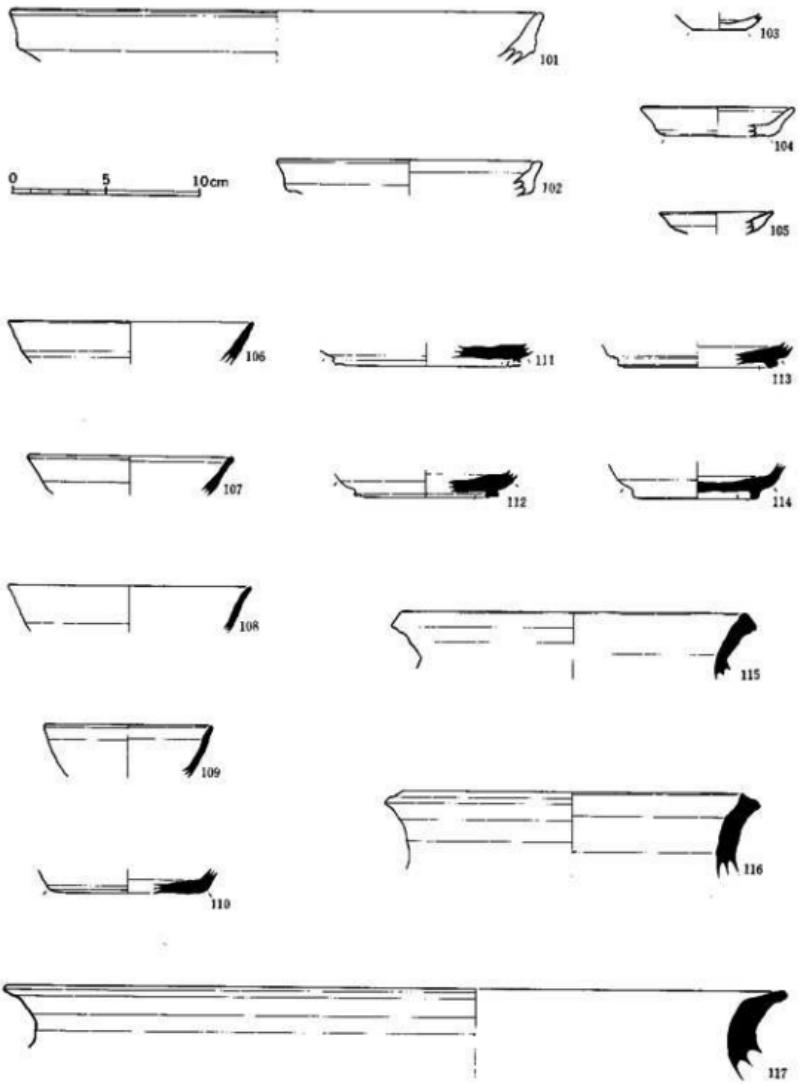
上記の遺跡の確認は、ほぼ3つの時期に区分される。

1. 昭和39年 中保B遺跡、小竹A遺跡
2. 昭和46・47年 立野地頭田遺跡、駒方遺跡、高田新茅道遺跡、高田新西後遺跡
　　笹川道尻遺跡、笹川福田遺跡、笹川末広遺跡
3. 平成4年 小竹B遺跡、小竹C遺跡、今市遺跡、三ヶ遺跡、上開発遺跡

1と2は、主に農業構造改善事業の工事中に確認されたものがほとんどである。3は今回の分布調査で確認したものである。笹川福田遺跡と笹川末広遺跡は、今回の分布調査により、以前は点として示していたものから、大きくその範囲を拡張した。本保遺跡は、今回の分布調査以前から確認されていたものである。

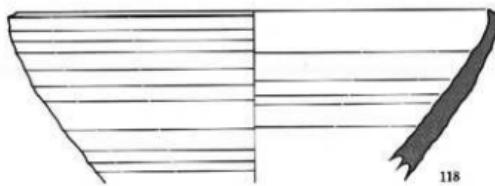
遺跡の発掘調査・試掘調査

今回の地区での発掘調査・試掘調査は数少ない。昭和46年には、高田新茅道遺跡（当時は高田新遺跡）で緊急の発掘調査が実施された。翌昭和47年には、駒方遺跡の発掘調査が実施された。この2箇所の成果は「オシャラ7、富山県高岡市高田新・駒方遺跡調査報告書」（富山県高岡工業高等学校地理歴史クラブO・B会、1972年）に報告されている。その後、昭和61年と平成元年に高岡市教育委員会による試掘調査がある。昭和61年の調査は、駒方遺跡の北側であるが、石鐵が1点出土したのみであった。平成元年度の調査は、笹川福田遺跡の東側であるが、遺構は確認されず、遺物も出土しなかった。このように、当地区は発掘調査・試掘調査の少なさとあいまって、遺跡の具体的な内容がはっきりしない地区である。

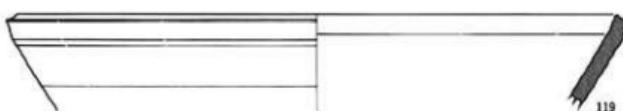


弥生土器；101～102、土師器；103～105、須恵器；106～117

縮尺1/3



118



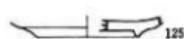
119



120



121



125



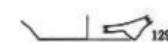
128



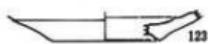
122



126



129



123



127



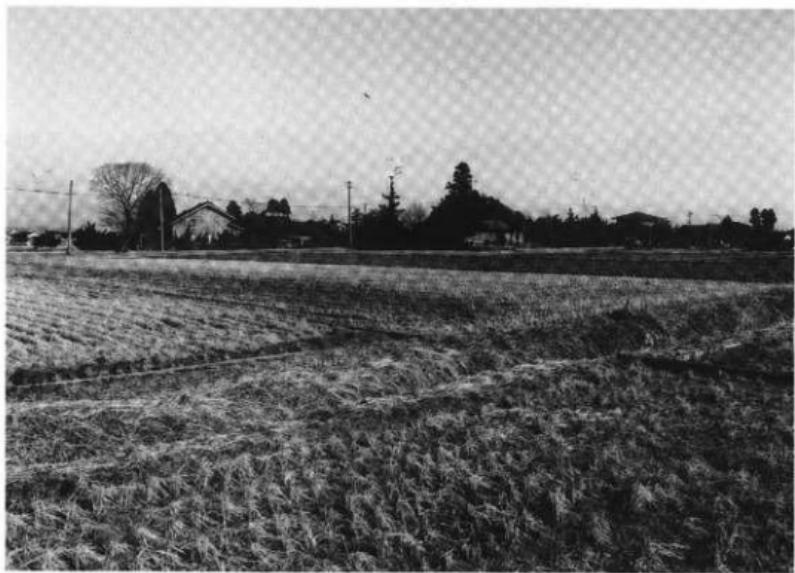
130



124

0 5 10cm
縮尺1/3

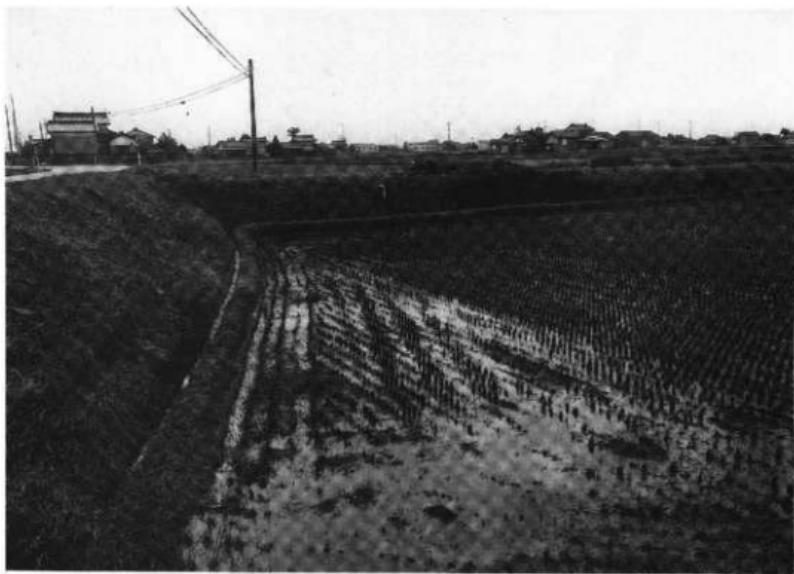
図版1 遺跡
千鳥ヶ丘地区



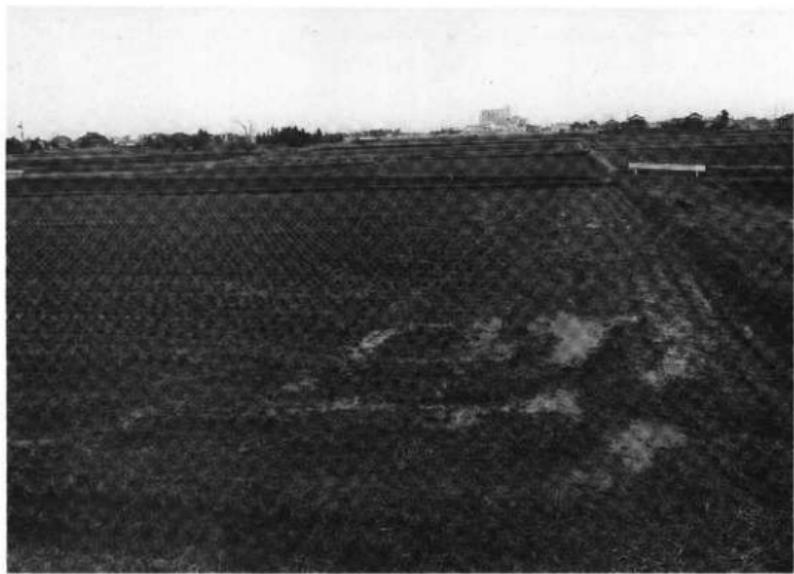
1. 中保B遺跡（南西）



2. 小竹A遺跡（南東）



1. 小竹B遺跡（北）



2. 小竹C遺跡（西）



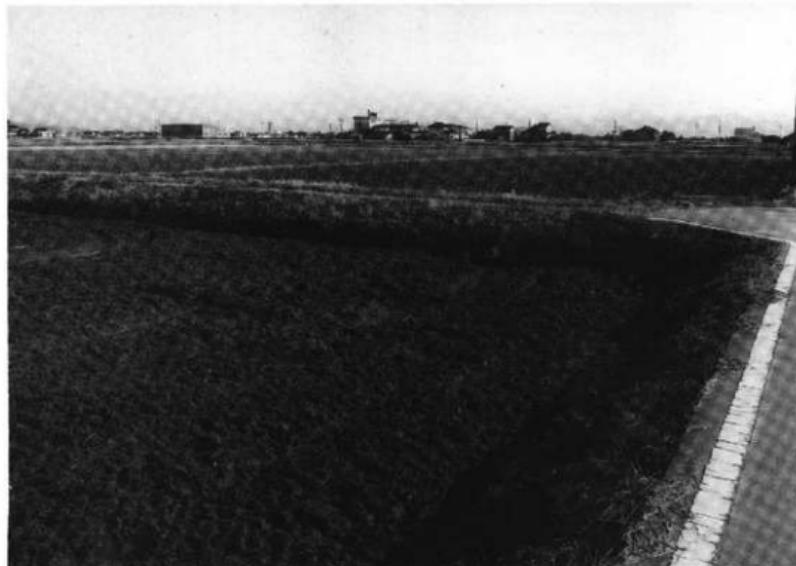
1. 立野地頭田遺跡（南東）



2. 駒方遺跡（北西）



1. 高田新茅道遺跡（南西）



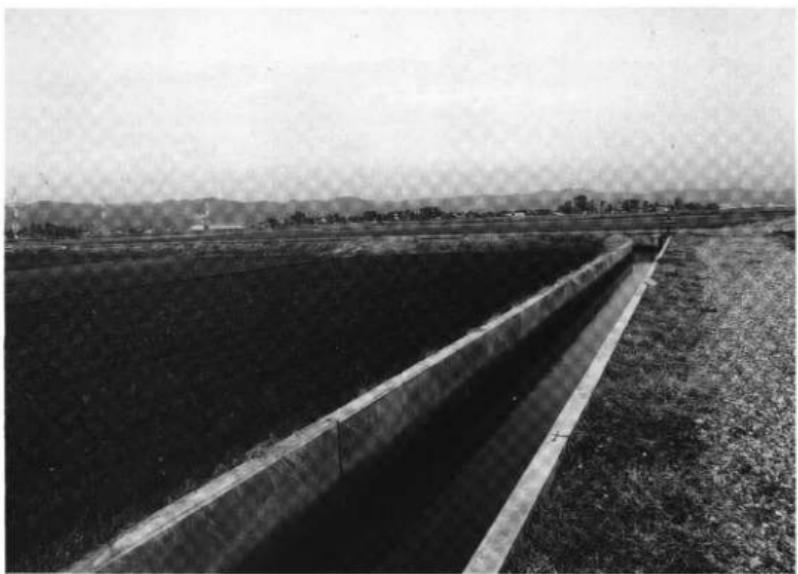
2. 高田新西後遺跡（南西）



1. 笹川道尻遺跡（南東）



2. 笹川畠田遺跡（南東）



1. 篠川末広遺跡（南）



2. 篠川末広遺跡（南西）



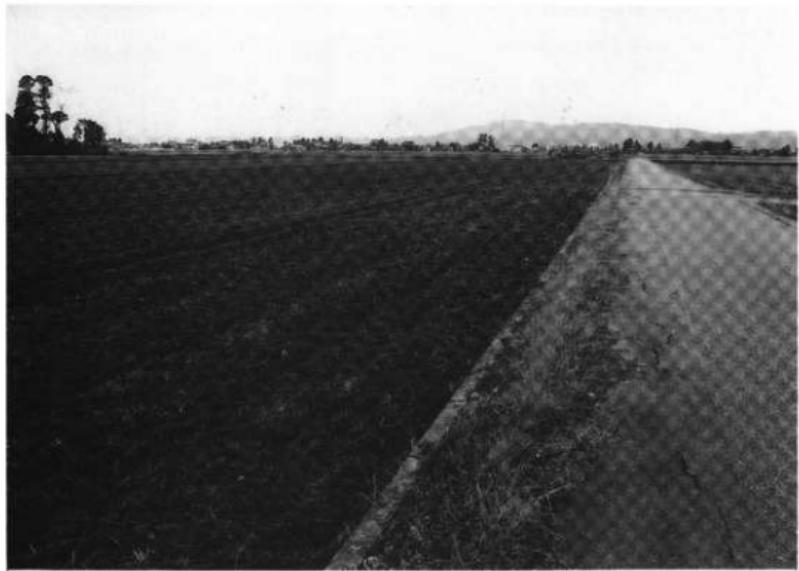
1. 本保遺跡（南西）



2. 今市遺跡（東）



1. 三ヶ遺跡（南）



2. 上開発遺跡（東）

高岡市埋蔵文化財調査概報第21冊

高岡市埋蔵文化財分布調査概報IV

発行者 高岡市教育委員会

富山県高岡市広小路7-50

1993年3月31日

印刷所 小間印刷株式会社

富山県高岡市利原町3

